

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

178



服部應賀著

百番觀音靈驗記

秩父

三

觀世音靈驗記 秩父三十四番

秩父第一番



為山の寛弘四年二月十二日書寫山
 にて性空上人弟子幻通ふをてのりく
 武蔵守秩父小行春の辰奉せし
 親善あれども東夷の辰撒登せば
 と美事されしつゝ我寂小
 ちりりねがひの
 妙典をえんぢふ
 さうとね
 彼地小
 仍て庶人と
 化及せよとの
 妙の命と
 つかず
 幼通あま
 来て美協とらうら

ありぐと一すれあふぬ法結を
 教の心手那のち乃以

應賀撰
 國政画



4104

秩父第二番



大槲 禊沙 鬼丸 岩屋 小のり 門子と 痛し なる所へ 女末てつれ 此の茶が妻あり 嫉妬先定の悪意より夜乃 鬼とつれにしがゆの傍短と きてて化果をゆらう



めづり茶をてれひせりあり大槲の 推しひもふりきき川流あり

ふせ 糸絶小 杖と納む とのひて失せ なる由るゆけ 北へ堂を建 て尚その短 ととむらひ 是なる

秩父第三番



岩山の平 十玉の傍へ 以奏の借あり 君がんあまの 不勝石 長命水 子持石の さいく珠 小不不候おれ 此大士の妙智カと ありく依上と茶飯の 者今も言くありあり



補陀らくわ岩本ありとそがむべー 雲の中川風望むく遊津歌

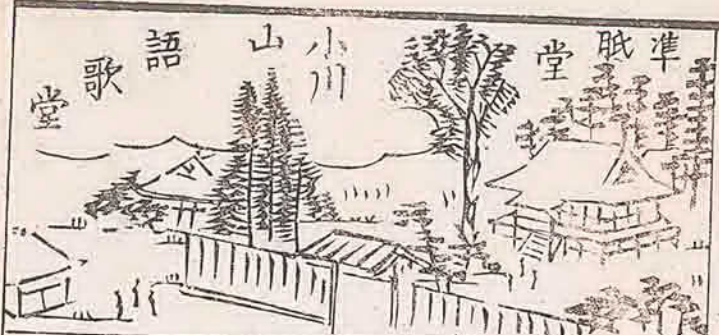
秩父第四番



あまのりありてむむ親世者
 二世あまのりありてむむ親世者

お娘の
 丹下と
 荒木
 十面堂
 奉願
 万石
 山
 小川
 語
 歌
 堂

秩父第五番



南寺の文と形本同録ハハ
 家
 親
 旅
 佛
 名と

矢

三

秩父第六番



昔は平山をくそびへて幽深の地なれば
うけ世とまてくる後傍事つて業徳と
むすびの礎の徳の
あつての大士と
好善徳ト
なれはあつた
あそ
初粒小
風吹むまが
若うは世乃
あそぞあめらる
とひあそとあしる
とやとちあちをた



初粒より風吹むまがす粒のあそ
あうりの世はあそぞあめらる

迅速の世と
さうりまより
そ粒のまよと

秩父第七番



昔は平山をくそびへて幽深の地なれば
うけ世とまてくる後傍事つて業徳と
むすびの礎の徳の
あつての大士と
好善徳ト
なれはあつた
あそ
初粒小
風吹むまが
若うは世乃
あそぞあめらる
とひあそとあしる
とやとちあちをた

伝
後世

秩父第八番



秩父第九番



たぐいの花嫁のしらべさるせん
さうりやうんご花のこころ

あまのつら月
まら月宿の
うらあつかりに
けまやうごひ
どろりあど
するとき

あまのつら
おろろと
大士のうた
うらあひやうる

うらあひや
その
かこ
縁備の

天正の辰枝濃の星の五王と
幼少の正月月の母お孝んあま
ひらんおんへまど引つれて夜々
糸備一とねばあや家来りて
むくまむくまあちえ
無垢清浄光恵日破 諸聞
とやあつては西
お如くとあつては
んーたねば母の服
まなるけり額多き
りねばま工へ田畠とや
おの寺の名とほ星山と



つげまなる

おろりあまの
んの月へおろりやうあつて

秩父第十番



萬松山の真徳の申す縁海
 の由に在 儒者ありて
 仏法を排りて
 儒者の教
 擧げしを
 ぐらふあり
 大士九
 僧小現れ
 儒者の学多
 ありしが 魯門の羅刹鬼は
 の文書が 生在 前ハのそり
 やけ返る せむの流しをの取
 さぬと刀が 互あると御共
 世をそと 笑ひををる 波西木小
 まつてサア 羅刹鬼ハと切くるを 娘まを
 ちんすく くり 教をいさめる 大慈寺
 上の ちんすく の 若くは の ちんすく



秩父十一番



佛寺の危掛
 門海多幸 劫化
 どのんぬ 指さく 二王門 建
 立ちかあて ありき 必ひに
 かを これゆを ちんすく と
 神宮の 宝蔵人 の ちんすく ちんすく
 全別休 ありて ちんすく ちんすく
 今 忍歌の 邪鬼を ちんすく と ちんすく

△ そのまゝ 田舎
 ちんすく ちんすく
 教とちんすく



秩父十二番



秩父十三番



老の身りるる 秩父の山村に...

△此方と感下 宿をへたじがき後又 通乃世小波紙と雲 あり へひさうの像 とまててやう と遠立 せり

あひの村小僧はる美れおびさうあり 花より 着茶のあふをまきするあり

△うらが さると 小次郎



十八日の大火小 花をまぬかれ 高木の利 美その板 仍不あり

水もりの蓮のよき紗りやうく らうせはちりせをののいせり

秩父十四番

長岳山

今宮坊



正觀堂

秩父十五番

母巢山 藏福寺



十一面堂

武田信玄の老屋山跡之弁太婆の
紐下石糸之内といふ所の

時田合戦の掃頭
切抜しし付ら世に曰い

さぶふ十七日の事
多しは産不産さる

け大士と云ト
て尊門宗を

後もさ
げ強
備



死を止めせ近習不
おさむむ信玄公の命
のりとの供と長う

せりの... ぬ今... ぬ今... ぬ今...

湯尾峠

近頃の
湯尾村の
商人湯尾
侍と云ふ
河原空お
懐後のの泥丸
て折角

▲世不定知

かた親孝の像と



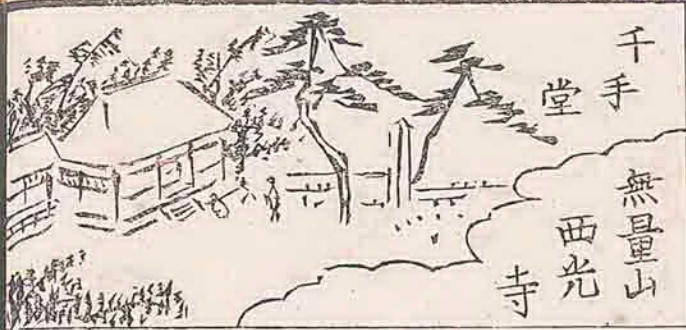
他りたる像くもあねれと云ふ亦述りて
事と成んまきや
度りて定知すつら板板板ありあ

大士の像と云ふは
東長公領と云ふは

みぬり子の母を新蔵の所なく寺
父と云ふもり

秩父十六番

千手 無量山 西光 寺



秩父十七番

定林 寺 丹生 氏 持



あぢふらひはるま 田比五月の
 才りふえとてわがねばるるせん
 老後あるやむむむむ
 まゝいふとく
 の頼み小依
 て生るる
 死るる若と
 うらやを我子孫
 妻人後世をとどろく
 ちね又逝くお親孝の
 像



西光の松多ひん人よたぐの多松
 つひのまをくろまはにーとく松の松多ひん

まじしおせ人へかゝる妻はたの
 つ且に死つひて定えお破
 之才の男子一人のとて生
 とりぬ門行てなるに良門あま
 情おまうて子の未産とゆき
 あくし忠士と失
 ひーとて
 けすて
 かひ
 林源を
 良元と名のか
 廿々四郎とあ一



あーやーとあひのやんやー林ぞら
 うのオアおえんばあはさあああ

秩父十八番



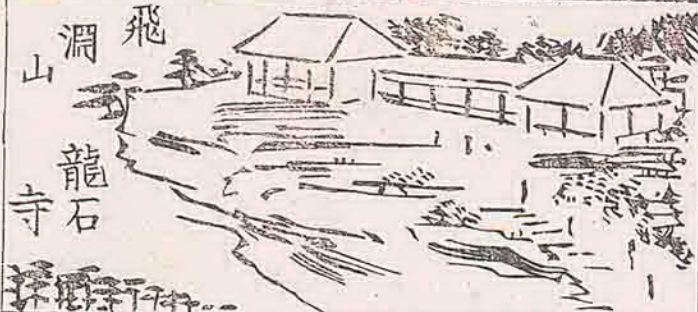
あまのふりかへりて
 林檎のしほ
 社々のえんく
 再連のつら
 巫女と奏
 夕末社
 社々
 あり
 あり
 祝祭
 せよとの祈仕
 たがふめとに
 林檎のしほ

▲まうせ親善の笑柄ありこれバ
 素のどく田々お業をせむぬの
 利きも又いあじうとあふあつう習あり

たがふめとに天怒とて
 林檎のしほ



秩父十九番



あまのふりかへりて
 龍石寺
 飛山

あまのふりかへりて
 龍石寺
 飛山

▲あまのふりかへりて昔一天下大旱
 のと死弘法大ゆ不勅あつて政々
 所ら母ふ世お林家苑より小社

天上へ親善を二ッお親善とて大松
 雲とあにふらぬちあありこ
 人蓄業本をふとてガリて
 お幸と成る笑柄に

あまのふりかへりて
 龍石寺
 飛山



秩父二十番

岩の上の
聖観音堂

別當
内田定金

あまの河原の
川邊はして希代の風俗
昔は尾村の藤子母の荒
川の向ふ八路と云ふ所あり
りゆき急流のあふせありて
よくききゆんと世に大
みあふまで川を航する
叶ふ川邊ありあり

秩父二十一番

矢の堂
要光山
観音寺



正観音堂



昔は尾村の藤子母の荒川の向ふ八路と云ふ所ありりゆき急流のあふせありてよくききゆんと世に大みあふまで川を航する叶ふ川邊ありあり

岩の上の
聖観音堂
別當
内田定金
あまの河原の
川邊はして希代の風俗
昔は尾村の藤子母の荒
川の向ふ八路と云ふ所あり
りゆき急流のあふせありて
よくききゆんと世に大
みあふまで川を航する
叶ふ川邊ありあり



昔は尾村の八幡宮行幸
おきろ素直せおれ外は
勅しと木木ぬと観音
の像と作りおる像と
けりとの悪魔も恒例と
しと



秩父二十番
秩父二十一番

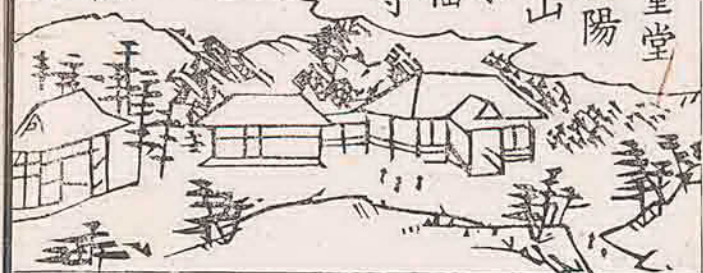
秩父二十二番

童堂

西陽

山福榮寺

正觀音堂



昔漢州の
有徳の
僧あり
農家も
脚の傍あり
て食を乞ふ
ふへざれば便と申す
米とりとめ門前の木の
釜ふけて大に煮るれば家の牌木のぞく
ろつくは米と喰へば祝あたらきと
て傍とらぬまのやもな因果の及理と
後き世せれば父母母を大と引て重
赤玉の冥福とあり尚ほまありて
行念とねばめとの人小懐りるとあり

極樂と云ふはついでについでに

此の世の世もたの世も



秩父二十二番

小鹿坂

松風山

音樂寺



正觀音堂



白濁山
弘の村と令
れはの家内
山源庵
陣

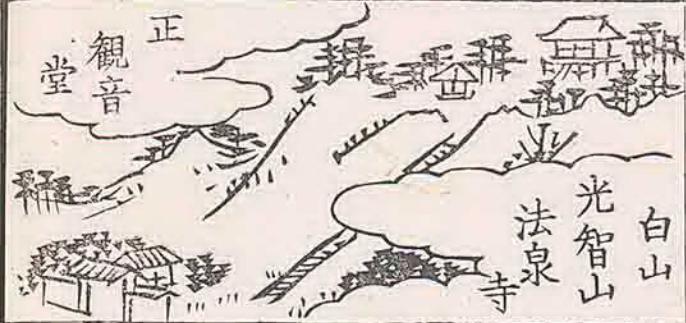
源庵

母の口くち事セク
はねば生母は寺の
と

母の口くち事セク
はねば生母は寺の
と

る樂のそとありありの板の
あふりふりふり

秩父二十四番



むかし武井急が窟の柱女に
 意然ある共ありて岩山の
 親者と係りしは
 わぶ信修人
 とそ毎朝
 来る者人を
 くらふもの肉
 とをどと世に
 その口の中痛ひ
 小引ると懐仍人まで一本の揚枝と出
 これとゆく中をそぐれば痛ひのやと云る者
 どののどぐせーかごとむにりえなる今もあふより
 後者のやじととせるとを刺を
 天々くいん神のそそそめろのそそ



かろの匠と

秩父二十五番



ひ女句
 せいりの耶
 ちんせんとまれ
 ハ一談ゆんま
 ままねくものち
 のまきやくおひまされ
 久那の岩洞小位
 きんぐの恩業
 とまねが荒川小
 うちらあまにーがのち
 つゝくて女の子と
 鬼の心由も子とあの子ら
 和なりはむすめ考んあ
 俗林と伝われれば里人の子ゆに
 ようてつひお舟のぶとくのち
 五右衛門と
 覚得
 更地とわろーと



ひまのこゝろいづくあつらん岩急事
 中あきひも之那く夕日水がや

秩父二十六番



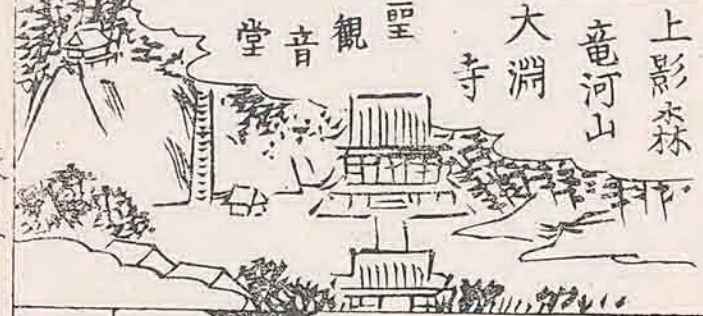
尚六空を凌ぐ多山 四六五那と
 中を考やくる岩の上は
 さかぐの林佛と表垂
 しく紫色もまこ
 ぶひるき買坊
 たりあ
 玉の
 利差
 を数
 りる
 正信
 信すま
 り

秩父のあ
 成泰の去縁
 常を弘
 縁と強トく

一人入
 秩父のあ
 成泰の去縁
 常を弘
 縁と強トく

ちづのりむすお清あのみ井井
 ちづのりむすお清あのみ井井

秩父二十七番



昔の橋の借宝のといふ
 あり聖とありえ
 の只西方と志トるに
 七事用ふ取て弘法
 大沙高地へありて
 あらまといんふく感きま
 大士の像とさきま
 せふとあえられバ
 ねやくしてま小安を
 大士の利差あり

昔の橋の借宝のといふ
 あり聖とありえ
 の只西方と志トるに
 七事用ふ取て弘法
 大沙高地へありて
 あらまといんふく感きま
 大士の像とさきま
 せふとあえられバ
 ねやくしてま小安を
 大士の利差あり

夏州やあまのまのわと
 ちづのりむすお清あのみ井井



秩父二十八番



秩父二十九番



昔あまの御魂
 邪司とつる邪兄
 考般生と地蔵の像
 と破逆する邪子の
 死くたる 地蔵入墜
 びとこひ
 け掃ま
 ろの焼
 と夫の根と
 びく掃まくる小
 ろく結と生れまうる地
 りるとり冷き史村人ば人土と

出てを結と巻石に
 化してるとのふの
 うあり今小
 あう



あまのちのめ
 へ正天台の位下
 持の園う毎夜
 と
 と流人んてあまの政へらと
 うらち権化の傍十余人身うて
 小通の儀りし思慮の内うりはすあま
 慈濟してそ不安をせしむ世の抱持
 静山和尚の余助けりるへ糸通信伝お出さう
 かつあのはかりはらぶさての戸御 幼なき
 佛はせがむ身こそこのもー

秩父三十番



あらの
 本寺の元後元津
 長寺の長後津の
 持あり一唐船家
 金庫が揚子江の
 冥後のとめ舟地
 不室三巻に
 困眼させてる
 如念勝の呉仏
 うり高寺あ
 唐の殘跡皆
 昔の武家の
 此れれそ外
 宝物ああり

一 ひとり南の親と留め且つて
 意 思のあらはるのちひれ

秩父三十一番



あらの
 本寺の元後元津
 長寺の長後津の
 持あり一唐船家
 金庫が揚子江の
 冥後のとめ舟地
 不室三巻に
 困眼させてる
 如念勝の呉仏
 うり高寺あ
 唐の殘跡皆
 昔の武家の
 此れれそ外
 宝物ああり

一 ひとり南の親と留め且つて
 意 思のあらはるのちひれ

あらの
 本寺の元後元津
 長寺の長後津の
 持あり一唐船家
 金庫が揚子江の
 冥後のとめ舟地
 不室三巻に
 困眼させてる
 如念勝の呉仏
 うり高寺あ
 唐の殘跡皆
 昔の武家の
 此れれそ外
 宝物ああり

秩父三十二番



武丹号瑞那の滝
人老信持の秋
の始近村へ
嫁入りて
春日実
家へ事
ふさふさ
にて悪魚小
とと及とあそそ
あつじとげ本答
女小化してまゆ
聖なるのひきき
天冠のうへま
うみりあふ物じ
きりあさり

秩父がやくむ殿
あつじとげ本答
女小化してまゆ
聖なるのひきき
天冠のうへま
うみりあふ物じ
きりあさり

秩父三十三番



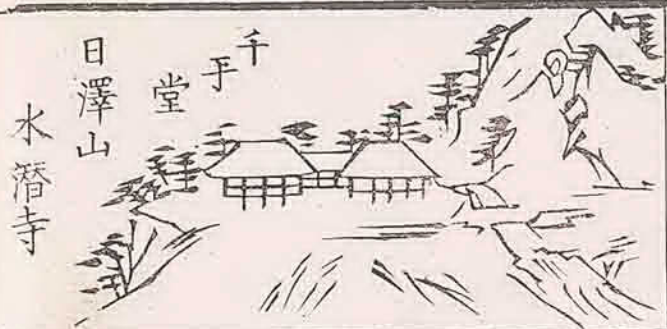
小坂下延命山
菊水寺

捕正殿の
おの娘小縁
おの娘小縁
おの娘小縁
おの娘小縁

おの娘小縁
おの娘小縁
おの娘小縁
おの娘小縁

おの娘小縁
おの娘小縁
おの娘小縁
おの娘小縁

秩父三十四番



○書目

一大學	後藤點	全二冊	一德川十五代記	全二冊
一中庸	同	全二冊	一豊臣三代記	全二冊
一女今川操鑑		全一冊	一算盤獨藝古	全一冊
一相馬日記		全四冊	一二千年袖鑑	全一冊
一芝山一笑	日清贈答詩文	全	一公用郡區改正便覧	銅版 全一冊
一艸筆函譜	前廣重画	全六冊	一諸國道中記	全
一觀音大驗記	萬應亭 應賀著	全三冊	一東京一覽図	附華族官員住居 全一折
一大和百人一首		全一冊	一はかき用文自在	全一冊
一通男女媼事戒		全一冊	一違式註違定例	全二冊

樹甘露

天長元年奉末皇天皇



多し人蓄美本...
 尚地へ此れ事りて...
 依て我と人西...
 おまぬ末と...
 日澤山 水潜寺
 千手堂
 日澤山 水潜寺
 千手堂
 日澤山 水潜寺
 千手堂

一 街路取締規則	全一冊	一 高名武者鑑	全三冊
一 官等月給規則改正	全一冊	一 鶯塚梅の魁	全一冊
一 日用八ヶ条	全一冊	一 本朝百孝子傳	全二冊
一 白隱禪師旅行うた	全一冊	一 報曾我物語	全一冊
一 文昌帝君陰騭文	全一冊	一 摘漢楚軍談	全一冊
一 觀音經	全一折	一 本能寺 山崎兩軍記	全一冊
一 般若心經	全一折	一 はうふよせ本 <small>銅板 懐中人</small>	全一冊
一 不動經	全一折	一 役者 妙々奇談 <small>泉竜亭是正考</small>	全三冊

東京

本所区横網町二丁目十四番地

兒玉彌吉藏梓

明治十五年五月十七日御届

同 六月出版

定價金三十錢

著者

静岡縣平民

服部應賀

東京下谷区西町
三番地寄留

出版人

東京府平民

兒玉彌吉

本所区横網町二丁目
十四番地



